

未来のダイエット治療薬を一挙公開

MyMedipro株式会社
© 2026.01.30 10:23

美容・健康

次世代・抗肥満薬の解説動画シリーズを公開:Diabesity.infoへ

肥満治療・ダイエット薬の専門情報サイト「<https://www.diabesity.info/>」は、2026年から2028年にかけて承認・実用化が見込まれる最新の抗肥満薬に関する解説動画シリーズの配信を開始いたします。HDCアトラスクリニック院長・鈴木吉彦医師（医学博士・元日本医科大学客員教授）が、世界の最先端の糖尿病肥満学術集会で集めた医学的知見を、動画で分かりやすく解説いたします。本シリーズでは、米国FDAや欧州、日本での承認が期待される「オルフォグリブロン（経口薬）」や「レタルチド（トリプル作用薬）」など、主要な新規薬剤11種を徹底分析。従来の「GLP-1受容体作用薬」から、より強力に利便性の高い次世代薬へとシフトする「ダイエット治療の未来図」を、専門的な知見に基づき一般の方にも分かりやすく解説します。



1. 背景:2026年、ダイエット薬は「第3世代」へ突入する

これまで肥満治療の現場では、ウゴビ（セマグルチド）やゼップバンド（チルゼパチド）といった注射製剤が大きな変革をもたらしてきました。しかし、2026年1月現在、世界の医薬品開発のトレンドは、これらを過去のものとするような劇的な進化を遂げようとしています。開発のキーワードは「より高い減量効果（20%〜25%以上）」、「飲みやすさ（経口薬）」、そして「質の高い減量（筋肉維持など）」の3点です。<https://www.diabesity.info/>では、単に体重を落とすだけでなく、健康的かつ持続可能なボディメイクを可能にするこれらの次世代薬について、正確な情報を届けるべく本動画シリーズを企画いたしました。

なお、diabesityとは、diabetes（糖尿病）とobesity（肥満）を治すという、全く新しい医療概念で、近年では、2025年の欧州糖尿病学会でも使われ始め、今後、広く普及していく用語になるだろうと考えられます。



2. 動画シリーズで解説する「2026年の注目薬」

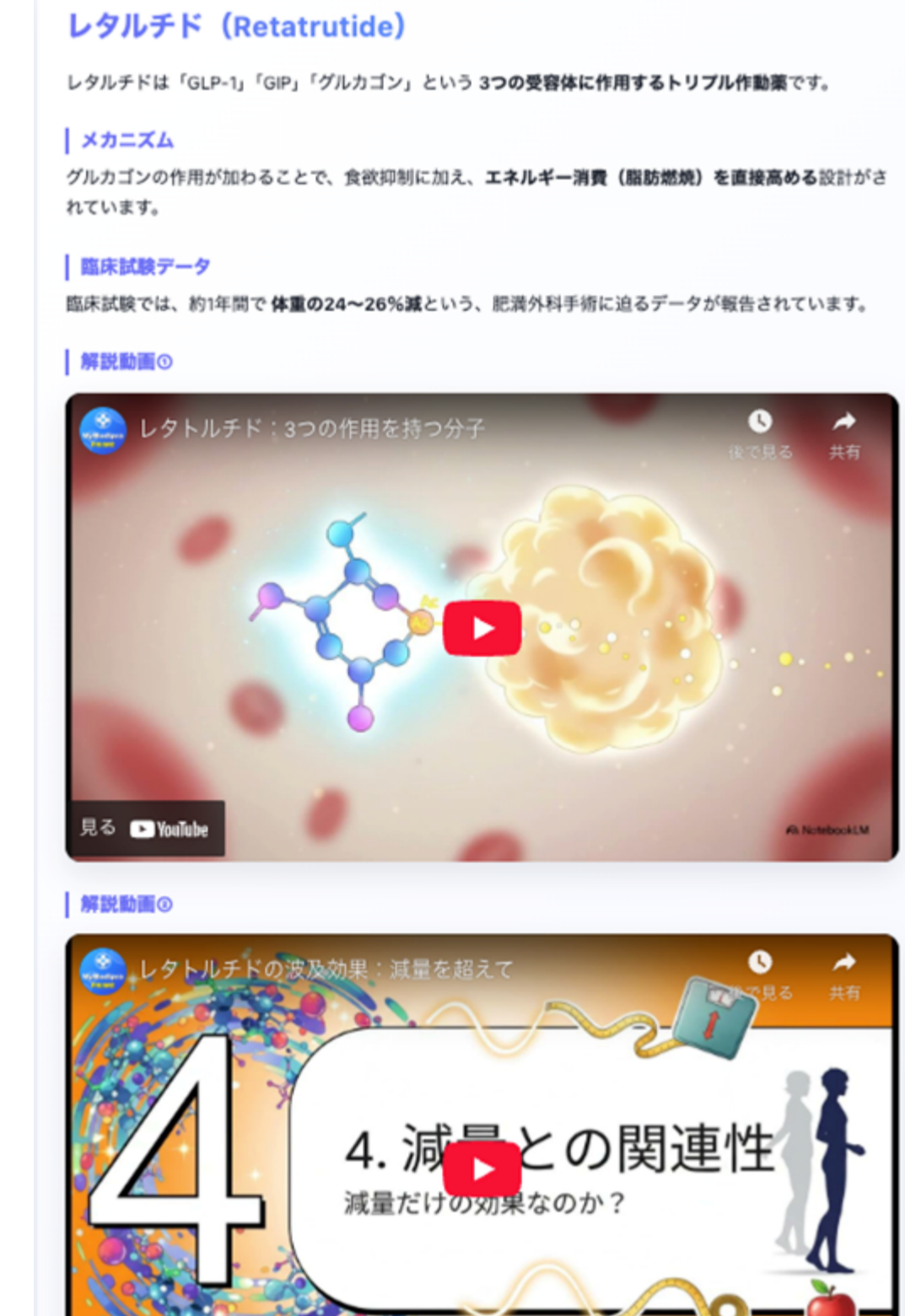
本シリーズでは、開発が最終段階にあり、2026年内の承認判断が濃厚とされる以下の2期について詳細します。

- ① 注射が苦手な層への福音: **オルフォグリブロン (Orforglipron)** イーライリリー社が開発中の「オルフォグリブロン」は、現在の主流である注射薬（マンジヤロやゴゴビ）とは異なる、「1日1回の経口薬（飲み薬）」です。
 - 特徴: 「非ペプチド型GLP-1受容体作用薬」という新しい技術を用いており、従来の経口薬（リベラス）に比べて吸収が安定しやすい設計となっています。
 - 革新性: これまでの経口GLP-1薬で課題だった「起床時の空腹時に服用」「服用後30分は飲食禁止」といった厳しい食事制限の制約が少なくなることが期待されています。
 - 見通し: 2026年第2四半期（4〜6月）頃に米国FDAでの承認判断が見込まれており、注射に抵抗があった層への普及が予測されます。
- ② 手術に匹敵する効果: **カグリセマ (CagriSema)** ノボ ノルディスカ社が開発する「カグリセマ」は、既存の強力なGLP-1薬（セマグルチド）に、新たな成分を掛け合わせた合剤です。
 - 特徴: ウゴビの成分に加え、満腹感を高めるホルモン「アミノリン」のアナログ製剤（カグリリンチド）を配合しています。
 - 効果: 臨床試験では、ウゴビ単独よりも強力な約28%という**減量効果**が示されています。
 - 見通し: 2025年末に米国で申請済みであり、2026年中に承認審査が完了する見通しです。

3. 動画シリーズで解説する「2027年以降の未来薬」

さらに動画では、現在第3相試験（最終治験）が進行中で、2027年以降の登場が予想される「次世代の強力な薬剤」についても深掘りします。

- ① **脂肪を直接燃焼させる:レタルチド (Retatrutide)** 「GLP-1」「GIP」「グルカゴン」という3つの受容体に作用する「トリプル作用薬」です。
 - メカニズム: グルカゴンの作用が加わることで、食欲を抑えるだけでなく、**エネルギー消費（脂肪燃焼）を直接高める効果**が期待されています。
 - 驚異のデータ: 臨床試験では約1年間で体重の24%〜26%減という、肥満外科手術に迫るデータが出ています。
 - 承認時期: 第3相試験の完了が2026年前半、承認は早くとも2027年になると予想されます。」



- ② **肝臓の脂肪もケア:スルボデュチド (Surdodutide)** ベーリンガーインゲルハイム社が開発するグルカゴン/GLP-1受容体作用薬です。特に肝臓への脂肪蓄積を改善する効果が注目されており、近年問題視されているMASH（代謝機能障害関連脂肪肝炎）の治療薬としても期待されています。
- ③ **月1回の投与でOK:マリタイド (MarTide / AMG 133)** アムジェン社が開発するこの薬剤は、既存薬とは逆転の発想を持つユニークな注射薬です。
 - メカニズム: GIP受容体を「拮抗（阻害）」しつつ、GLP-1受容体を作用させます。
 - 利便性: 半減期が非常に長く、維持期には「1日1回の投与」で済む可能性があり、通院や自己注射の負担を大幅に軽減します。
 - 承認時期: 2027年〜2028年頃の発売が見込まれています。

他にも、アストラゼネカなどの多数の大手製薬企業の**新薬**が臨床治験のPhase IIを終えそうだという噂を聞いております。

4. diabesity.infoが描くロードマップと動画の狙い

diabesity.infoでは、これらの薬剤の登場によるトレンドの変化を以下のように定義し、動画内で詳しく解説していきます。

- 〜2025年: プラオバス（日:サクセント）、ウゴビやゼップバンドによる「GLP-1/GIP製剤」の普及期。
- 2026年: 「経口薬（オルフォグリブロン）」の登場で注射が苦手な層へ治療が拡大。同時に「カグリセマ」により減量効果も一段階アップする変革期。
- 2027年以降: 「トリプル作用薬（レタルチド）」等の登場で、減量効果が最大化（25%以上）され、月1回投与などの利便性も向上する完成期。

私たちの目的は、単に「新しい薬が出ます」と伝えることではありません。それぞれの薬剤が持つ「筋肉を維持しやすい」「食事制限が楽になる」「投与回数が減る」といった特性を理解し、視聴者一人ひとりが自身のライフスタイルに合った未来の選択肢を知るきっかけを作ることです。

動画では、医学的なエビデンスに基づいた情報発信を行います。ダイエットの未来は、苦しい我慢から、科学の力による「賢い選択」へと変わります。ぜひ、diabesity.infoの特集動画をご覧ください。



医師がコミットするダイエット HDCアトラスクリニック 院長 鈴木吉彦 医学博士

■ diabesity.infoについて

GLP-1受容体作用薬を中心とした抗肥満薬、ダイエット治療に関する最新ニュース、臨床データ、専門家の解説を網羅する情報プラットフォームです。

企業担当者の連絡先を閲覧するには会員登録を行い、ログインしてください。

[ログイン](#)

種類	その他
カテゴリ	美容・健康

MyMedipro株式会社

URL	https://www.mymedipro.co.jp/
業種区分	サービス業
代表者名	鈴木吉彦
上場区分	未上場

この企業のプレスリリース

- 未来のダイエット治療薬を一挙公開**

© 2026.01.30 10:23

MyMedipro株式会社
- ゲーム・ホビー**

「オセロ」の誕生から半世紀、日本のボードゲームが覚醒する。特許取得済みの「Catacelo（カタセロ）」が世界市場に向けたアプリ開発・販売パートナーを募集

© 2026.01.29 09:25

MyMedipro株式会社
- 美容・健康**

【新開発】「ゲーム×脳科学」で認知症の「死角」をなくす。脳の全部をクロスチェックする複合的スクリーニングシステムを発表

© 2026.01.28 09:00

MyMedipro株式会社

もっと見る